

## サカキ活用方法～酒井明 説話集28※～

暮らしの中に生きてきた習慣も、だいぶ廃れたものもあるが、それでもまだまだ思いもかけない様なことが残っている。

山に暮らす人たちとあれこれ話している内に、こんな話を聞かされた。

なんせ山仕事はちょっとの油断がケガのもと、仕事始めに山の神を祀って気を引き締めてかかっても、思わぬ事故が起こる。そんな時、特別気丈な人は別として、ふっと気が遠くなり失神することはよくあるが、そんな時、誰かがすかさずサカキの葉っぱを一枚その人の口に入れる。その葉を噛みしめ失神を防いで手当てをする。

特別サカキと指名しているのはなぜだろう。

有効成分があるのだろうか。

神を祀る木だからなのだろうか。

その辺定かな事は分からないが、とにかく山で暮らす人たちの中には今もそのことは覚えておけという人がある。おそらくこれも代々受け継がれてきたもののひとつであろう。

こうした習慣が伝えられてきたのは一体どの地域なのか。宿毛近辺でも一部だけのことなのだろうか。

そんな話の中でこのサカキ、さして目立つ様な花ではないが、その花の香りに山の狸がうかれて酔うて、昼日中でも田んぼ道までふらっふらと散歩に出かけてくる姿をよく見かけたものだという。

古老の中にはそんな狸の姿を見て今年もサカキの花の時期じゃといい、その花の香りに狸は確かに酔うものだと信じている人がある。

狸と言えども何かに酔うて浮かれる事もあるだろうが、さして目立つこともないサカキの花に酔えるとは、いささかうらやましいとおっしゃる人もある様だ。

どんな草でもけっこうだが葉っぱをちぎり取り、ふたつに折ってまたふたつ、合わせて8つまで折って切り傷の上に乗せる。これが血止めのまじないだという話も聞かされた。

昔の山の生活のにおいが伝わってくる様な話です。時にはこんな話を聞くのも楽しいものですよ。

※) 平成 26 年 3 月に逝去された宿毛市出身の酒井明さんは、長年教鞭をとる中で地域伝承や動植物の生態のフィールドワークを重ね、退職後も宿毛市文化財保護審議会（当時）長などを歴任、益々研究を深めながら観察日誌や説話、伝承技術などを膨大な手書き原稿にまとめられました。

ご遺族より宿毛歴史館に寄贈された原稿から、順次「酒井明説話集」として公開してまいります。

